

柏市の学校図書館

——市内すべての学校図書館活性化に向けて

渡辺 暢恵

1. はじめに

千葉県柏市は、2005年に沼南町と合併し、2008年には中核市となった。東京への通勤圏に位置し、駅前にはデパートとにぎやかな商店街が並び、郊外には田園や緑が広がる、住みやすく発展中の市である。

柏市学校教育指導の指針には、「生きる力と夢を育む」を柱に、四つの重点目標が掲げられている。1番目の「確かな学力の育成」の中に、学校図書館の活用が位置づけられている。その具現化に向けて、柏市教育委員会では、学校図書館指導員を各校に配置し、学校図書館アドバイザーによる支援と司書教諭研修の充実、公共図書館、地域・保護者ボランティアとの連携など、さまざまな施策に取り組んでいる。2008年度より、文部科学省の委嘱事業、学校図書館の活性化推進総合事業の委嘱を受け、ICTと連動した次世代型学校図書館活用をめざし、小・中学校で実践を重ねている。

2. 柏市の学校図書館の歩み

柏市の学校図書館の改善に向けての始動は、元指導主事が市内研究主任として、柏市立土小学校に勤務していた時期、1995年度にさかのぼる。市川市の学校図書館について書かれた本を読み、市川市立鬼高小学校、同富貴島小学校で、学校司書の活動と図書の相互貸借のネットワークシステムを視察し、今後の学校図書館の方向性を見いだした。2002年度、

柏市教育委員会の学校図書館の担当指導主事となり、市内の2中学校区で、ネットワーク化を試み、それまでの「巡回司書教諭」を「学校図書館担当事務職員」の制度に切り替えた。

巡回司書教諭は1学期に1回、6日連続1校に勤務し、購入図書選定、図書館担当教諭との打ち合わせ、委員会活動の指導、本の紹介、配架修正、廃棄図書の選定、環境整備、広報活動、蔵書点検などを行っていたが、短期間の活動には限度があり、不在期間が長いという問題があった。そこで、2003年度には、週1日、年間27日の学校図書館担当事務職員を配置し、蔵書のデータベース化を行うことにした。その予算は、国の緊急雇用対策費を活用し、学校図書館司書教諭の業務補助として、蔵書の管理のほか、本の修繕、購入選定と貸出業務の補助も行った。コンピュータは既存のものを活用し、低予算で効率よく進めることができた。

3. 2005年度からの学校図書館の制度

2005年度には、沼南町の合併もあり、小・中学校61校での新たなスタートとなった。蔵書のデータベース化も全校終了し、学校図書館担当事務職員を「学校図書館指導員」と名称を改め、その学校図書館指導員と全学校図書館を支援する学校図書館アドバイザーと、コンピュータに関するITサポーターを採用した。さらに、2007年度からは、学校図書館指導員の中の5名をリーダーとする班体制で



2005年度より発足した学校図書館指導員

各学校の活動を連携して進められるようにした。学校図書館指導員も参加する司書教諭研修会では、先進的な発表とブロックごとの話し合いの時間を設定し、年度末には全校の成果を集めた実践集を作成し、ホームページ「柏市学校図書館オンライン」(<http://www.edulab.kashiwa.ed.jp/tosyo/index.htm>)にも公開している。公共図書館とも話し合いを重ね、司書教諭研修会で団体貸出の説明をってもらうようにした。

学校図書館指導員全員は、メーリングリストと研修会等での情報交換によって連携し、各校が同じように進められるようにしている。毎月発行する家庭向け学校図書館だよりは当番制で書き、それを元に各校で自校の様子を伝える紙面構成とする。掲示物、ワークシートも一人が作成したデータを共有し、各校の必要に応じて加工して使用している。次にそれらの取組みの成果を記述する。

4. 学校図書館オリエンテーションの全校実施

各学校図書館にまず必要なことは、全校児童生徒、教職員全員がバーコードを使用した貸出しに慣れ、十進分類法で並べられた学校図書館の活用方法を理解し、使用できるようにすることであった。そのため、教育委員会指導課から年度初めに、オリエンテーションの実施についての文書と、小学校1年生から中学校3年生の指導案を各学校に送付している。このオリエンテーション指導案は、教諭



小学校でのオリエンテーション



柏市立中原中学校での読書会

をT1、学校図書館指導員をT2とする、チームティーチングで行うことが特徴である。全校児童生徒が学校図書館指導員に親しみ、質問などをできるようにすることがねらいである。小学校高学年、中学校では、学校図書館指導員との会話により心が癒されることもあり、この出会いの時間は貴重である。中学校では、校長先生に本の紹介をってもらう時間もオリエンテーションの中に設定している。また、全教員と学校図書館指導員が、顔を合わせ、わずかな時間でも予定などを話し合うことが、その年度の活用に大きく影響する。

5. 読書指導

学校図書館では、授業のめあてのもと、全員が本に向かえるようになることが望ましい。そこで、授業中の読書では、「好きな本を読みましょう」と指示せず、例えば、国語の教科書の作家や、理科に関する読み物など、めあてを持たせること、そのための本を準備しておくことを研修会等で伝えている。授業中



相互貸借の袋

の読書と休み時間や家庭での読書とは区別することで、読書の幅が広がり、読書力も高まっている。

また、読書指導の一つの形として、兵庫県西宮市を参考に読書会を進めている。読書会とは、同じ本を読んでその感想を話し合う方法である。写真は、柏市立中原中学校の図書委員会での読書会の様子である。小学校では学級ごとの読書会を行っている。同じ本を1校で何種類もそろえるのはむずかしいため、市内の数校で、20冊から40冊の本を1校で購入し、それを相互貸借している。2009年度には、文部科学省事業の予算を活用し、市内2校に小学校1年生から6年生までの読書会用の本40冊ずつを預かってもらう形を取った。

6. 調べ学習

計画的に調べ学習を行うためには、年度初めに、各学年がいつ、どんな調べ学習をするのか、司書教諭が把握し選書することが必要となる。しかし、1校の図書購入予算には限りがあるため、市では、2008年度より、既にあった文書の連絡便に乗せる形で、各校と公共図書館の図書を相互貸借できるようにした。その袋は、前の担当指導主事がホームセンターで見つけた農作業用の袋だが、丈夫で運搬しやすく重宝している。また、学校図書館でもインターネットを使った調べ学習ができるように、現在、各校で工夫しているところである。調べ学習の作成物を貸し出した学校に

送り、活用方法を広め、研修会でもその成果を発表してもらっている。実践した中学校の司書教諭は「調べ学習は全員が前向きに取り組み、確実に力がつく実感した。それは本がそろっているから」と話している。

7. 学校図書館運営マニュアルとホームページ

市内の学校図書館全部を同じレベルまで推進し、その後は各校の工夫で発展させるために作成したのが、学校図書館運営マニュアルである。原案は山形県鶴岡市のマニュアルを参考に作成し、教育委員会指導課内で話し合い、司書教諭、学校図書館指導員の意見を取り入れながら、1年半をかけて完成した。マニュアルには、基本的な学校図書館運営の方法、月ごとの活動、学校図書館を活用した指導案などを入れてある。

ホームページ「柏市学校図書館オンライン」は、それぞれの学校の実践を共有し、推薦図書のリストや指導案、ワークシートなどの資料をダウンロードするために使用されている。このホームページは、市外からの反応も多く、好評である。

8. 各校での実践

これら教育委員会の施策の上、各校ではさまざまな学校図書館の活用が進められている。その例として、柏市立柏第八小学校の実践を紹介する。2009年度の研究主題は「課題解決

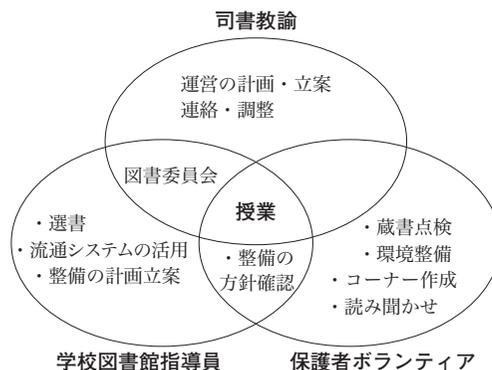


柏第八小学校の学習・情報センター

力（活用型学力）を育む国語科指導のあり方—学校図書館の効果的な活用を通して—である。学校図書館の機能を、読書を中心とした読書センターと、コンピュータと調べ学習用図書と同じ部屋に配置し、調べ学習を中心とした学習・情報センターに分離させ、それぞれの機能を生かした授業実践により研究を進めた。この実現のために、人的システムの整備をめざし、司書教諭の時間確保、研究指定による学校図書館指導員の勤務日数増加、新たな図書ボランティアの創設を行った。これらの成果として、三つの図書館の整備が進み、より利用しやすくなり、児童、教員の意識も変わり、これまでの年よりも大幅に貸出し・授業での活用が増加したことが挙げられる。

9. おわりに

知識基盤社会に生きる児童生徒にとって、学校図書館は、生涯につながる学ぶ力と豊かな心を養う大切な場である。柏市は先進的な市に学び、市の特徴であるICTを活用し、この5年間に、より良い授業づくりに積極的に取り組んできた。それは、司書教諭の校内でのコーディネート、学校図書館指導員全員の支援、公共図書館との連携、各学校でのボランティアの協力などさまざまな「人」の力を集めて実現してきたことである。また、代々の担当指導主事の熱意と工夫と、これらの施



柏八小の学校図書館活用を促す人的システム

策をバックアップする柏市の方針によるものである。

現在、学校図書館指導員は、週に1日から2日の配置であり、司書教諭の時間確保もすべての学校では行われていない。公共図書館には、団体貸出専用の図書はないので、多くの本を借りることはむずかしい。このような課題はあるが、教育委員会と学校と公共図書館が連携し、確かな進歩を遂げている。「この本おもしろかったよ」「調べたらこんなことがわかったよ」という知的な満足を得ている一人ひとりの児童生徒の笑顔を何よりの喜びとして、すべての学校図書館が連携して、歩調を同じにしつつ、その学校らしきを出しての活用が、今、進展中である。（わたなべ・のぶえ＝東京学芸大学非常勤講師・柏市教育委員会学校図書館アドバイザー）



B5判変型・83p
定価1995円(本体1900円)

楽しもう！

話 題 の 新 刊 !!
さわださちこ・著
(こどもの本コーディネーター)

学校図書館ディスプレイ



児童書売り場ディスプレイのプロが、手にとりたくなるディスプレイのワザとコツを、惜しみなく伝えます。学校図書館での Before & After、小さいコーナー展示、POPなど、手軽にできる例を豊富なカラー写真でご紹介。

〒112-0003 東京都文京区春日2-2-7
TEL03-3814-4317 FAX03-3814-1790

全国学校図書館協議会